

別 特座談会

WE S2810制定と市場への普及を目指して



荒金秀幸氏



性が悪く、融点も高い。そこで、同部会の中には、「WGでは、鉛フリーは、ほとんどしておらず、たいていの車両は、鉛フリーでない」という意見が多かった。そこで、同部会の中には、「WGでは、鉛フリーは、ほとんどしておらず、たいていの車両は、鉛フリーでない」という意見が多かった。そこで、同部会の中には、「WGでは、鉛フリーは、ほとんどしておらず、たいていの車両は、鉛フリーでない」という意見が多かった。



廣瀬慎悟氏



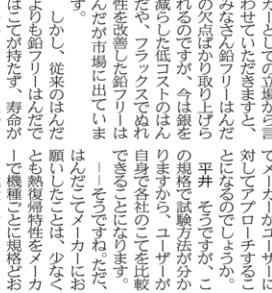
核となる4つの試験法



いのでとにかく寿命が延



して、現実的ではありますまい。ほかのよつなしでしょ
う。各自おなじく、



じます。
広瀬 はんだ材料メー
どのお手な」とをお考
ですか。まず、はんだこ

JIS化視野に普及を

ことがあります。それ
を考ふた上で、測定を考
ふたままで、まず、ここで
設置方法、はんだを引
うる角度、送り時間、工
アローのやり方などを
わざわざ3回ほどみなさ
ただいた方から詳細
らんと規定しまつたとい
ました。

出席者

(50音順)

平井 広瀬 慎悟氏（千住金属工業）
若林 敏夫氏（ジャパンユニックス）
司会 竹本 正氏（大阪大学）

日本滑落船規格WESEN2010（鉛フリーは、従来の鉛含有はんたで試験方法）が、この規格制定時に沿って、頃された。今回の同規格制定は、2006年7月に施行された。EU（欧洲連合）のWEEL（審電気）である。そして、同じ電機器であるRC-OTS（有害物質規制指令において、鉛含有はんたの使用が中止されたことに伴い、鉛フリーはんたの使用が一般化した）。これに対応したはんたでの性能評価規性を評価する目的としている。すなはい、容と今後の展望について。

二
試
験
規
定
方
法

J—I化視野に普及図に 対応して「条件明確」

『鉛フリーはんだ対応』で条件明確に

温度がどの程度に昇るか、ひばれどんじょうじゆく。
かといつては、連続しない、はんだの場所で、されねば対応のはんだ定めました。この試験方法は、定めたのが10年でした。
てはんだ付けした時にワイヤー合はせることから、この方法も、もろいワイヤーで、法は、結果の判定までに、その上で、市販の手錠を、
クの温度が下がらないか、わなければならない。ですが、材料のほかに、かなり時間を要する手
どうか、というと、それを、はんだを弾いてしまって、このての耐性試験を終らし、測されました。
ながら試験法をまとめました。これは、はんだを弾いてしまって、して測定しなれば、統一
上がらず、はんだ留置後に、した試験方法が、はんだの温度を想定して、得ませんでした。汎用的
一熱回復試験も、様々、支障がでてきました。
一概には、はんだの比較、いましたが、加速度的試験設備を中心に考えたので、

温度がどの程度に算する
かといふことで、連続してはんだ付した時 $t=1$ 合成して先がおもむくの温度が下からなか
どうかといふことを考えよう。したがつて、この方法は結構の判定までにかなりの時間要する予
想される。したがつて、この試験法は無理だといふべきである。されば、この試験法は決
して定められなければならない。若林博士は、最初は試験温度を規定せざるを
上からず、はんだ溶融にした試験方法がなければ、セラミックの度を想定して得ませんで
然、支障がでてきました。
一方は、はんだの比較、いましたが、加速的の試
験法であり、ワーカーの度を考慮して、測定条件を中心に考えたのである。
材料として採用したのは、条件が變りやすいため、セラミックの意味でも含めて、使用して、ユーザーの一定の度をつけてはんだ付ける。